

第5回 2025年大阪・関西万博 予算執行監視委員会
議事要旨

日時：令和6年10月2日（水）10:00～12:00

場所：経済産業省本館17階第5共用会議室及びオンライン

<出席者>

委員（五十音順・敬称略）：

上山 信一 慶応義塾大学 名誉教授
小笠原 直 監査法人アヴァンティア法人代表 CEO
梶川 融 太陽有限責任監査法人 会長
加藤 一郎 村田・加藤・小森法律事務所 弁護士
坂田 明 明豊ファシリティワークス（株）代表取締役会長
常陰 均 三井住友信託銀行（株）特別顧問
堀田 昌英 東京大学大学院工学系研究科 教授

経済産業省

大貫 繁樹 大臣官房会計課長
浦上 健一郎 大臣官房審議官（国際博覧会担当）
奥田 修司 商務・サービスグループ博覧会推進室長

（公社）2025年日本国際博覧会協会

小野 平八郎 副事務総長（理事）
岩田 泰 経営企画室長

内閣官房

井上 学 国際博覧会推進本部事務局次長

大阪府・大阪市

彌園 友則 万博推進局長

<議事次第>

1. 開会
2. 博覧会協会における予算執行状況について
3. 今後の予算執行及びスケジュール等について
4. 博覧会協会への要請事項への対応について
5. その他
6. 閉会

<配布資料>

- 資料1 議事次第
資料2 委員等名簿
資料3 博覧会協会における予算執行状況について
資料4 今後の予算執行及びスケジュール等について
資料5 博覧会協会への要請事項への対応について

<議事概要>

資料3を博覧会協会から、資料4及び資料5を経済産業省から説明をした上で討議を行った。委員からの主な意見は以下のとおり。(順不同)

- 委員会を始めた頃に比べると、全体像をよく把握してモニタリングする体制が出来てきていると感じる。コストについても、見えるリスクはきちんと管理されている。メタンガスのような事象が他にないか、よく見てほしい。
- リスクを減らすには収入の最大化が大事。まずは前売りチケット販売を頑張りつつ、開幕後はチケットの価値・価格について来場者からのフィードバックがあると思うので、それを踏まえ、臨機応変に対応してほしい。例えば、ダイナミックプライシングの導入やおまけをつける等。民間で実施する際は、チケットの売れ行きを見ながらそうしたことを実施している。
- 建設が間に合わないと一時言われていたこともあったが、順調に進んでいることは報道されない。過去のネガティブな報道をどうやって払拭していくか。まずは実態把握をした上で、しかるべきタイミングで必要な発表をするなど、ネガティブなイメージを払拭する手立ても必要ではないか。
- タイプCの費用については会期中に賃料で回収していくという話ではなかったか。また、どの程度の賃料収入を見込んでいるのか。
(博覧会協会「タイプCは賃料を取るが、その金額は万博誘致時にBIEとの協議により決定済み。なお賃料は運営費の収入として計上するため、建設費の中では出てこない。」)
- 資料4の日本政府館建設費の計数は、資料3の執行状況表に含まれているのか。また今回の契約変更は67億円とのことだが、会場内の他の建築物含め、今後も想定外の変更というものは生じうるのか。
(経済産業省「日本政府館の予算は2350億円の中には含まれておらず、別途360億円を確保している。今回の日本政府館の契約変更は想定外のものではなく、当初契約の中には元々含まれていなかった内装部分について、その内容が決まったことを受けて契約変更したもの。また、会場建設費2220億円に対応するもので今後予定されている事項としては、資料4の建設コスト推移表の「今後の予定」の中の「主な内容」欄に記載がある事項となっている。」)
- 予備費を含めると会場建設費はあと430億円の予算が残っているが、開幕までにいくらかかり、会期中いくら、閉幕後いくらかかる、といった概要が分かれば知りたい。また、休憩所などは開幕までに建設が終わるのか、それとも、夏場の稼働を目指して開幕後に完成するのか。
(博覧会協会「会期中の維持補修業務等は計上済のため、若干は会期中に契約が残るが、残り300億円で見ると建設については基本的には開幕までには済んでいる予定。今後の追加費用として予想されるものとしては、海外パビリオン関係。開幕が迫ってくると、休日夜間の工事が立て込んでくるはずで、そうなると、ゲート管理や夜間の警備員の手配をお願いせざるを得なくなる。」)
- 運営費について、開幕までにいくらかかり、会期中にいくらかかる、といった概要が分かれば知りたい。
(博覧会協会「今後契約が予定されている主な内容は、本日まで説明した事項である。会期中にかかる運営費の中には、スタッフの人件費のように恒常的に必要なものもあるが、大きなものは開幕までに契約を済ませる予定。一方で、閉会式などは、開幕してから契約する。」)
- 来場者予測はどのように行うのか。
(博覧会協会「どの日が混むかについては、愛知博の実績を参考にしている。チケットの売り上げ

や来場日予約の状況などを見ながら予測することになるが、一方で、パビリオン予約が出来るのは2~3ヶ月前からなので、会期が近づかないと具体的には見えてこない。』)

○資料4では進捗率も書いていただいているが、どの分母と分子でこの進捗率(%)になっているのか、また未着工分はどれくらいなのか、分かるようにしてほしい。

(経済産業省「資料中に注意書きを書かせていただいているが、ご指摘のように、契約がどれだけ進んでいるかを示す必要もあると思量。協会資料にある執行率を、我々の資料でも示すことを検討したい。』)

○入札残、執行減があるとのことだが、具体的に説明してほしい。

(博覧会協会「予定価格より低い価格の入札や執行の段階で減額になっている案件もあり、若干であるが当初の予定金額よりも減額を確保している。』)

○会場建設費については予備費に手を付けざるを得ない状況と理解したが、執行監視委員会の立場からは、予備費130億円は超えないようにしていただきたい。現況建設資材コストは少し落ちてきたが、人件費は未だ高止まりしている。協会にて一つ一つのプロジェクトの精査(バリュエエンジニアリング:VE)をやっておられるとは思いますが、このVEにより一層エネルギーをかけて、130億円を厳守いただきたい。最近の工事請負契約ではスライド条項が必須となっている筈なので、契約変更をすることなく、VEで、予算に不釣り合いなオーバースペックや未だ受注者が段取りをしていない工事項目などを抽出し、発注者・受注者が協議を行い、お互い納得した上で、予算内でコストを収めるようにしてほしい。民間の現場では、現在この調整に多くのエネルギーをかけている。本プロジェクトでも、重箱のすみをつついてでもコストを下げる努力をお願いしたい。

○予備費には極力手をつけない、つけたとしても最低限としていただきたい。災害など想定し得ない事象への対応については、例えば水害で会場が水浸しになり路面が陥没したといったような事態を想定した場合、具体的にどのような対応をするかによって、建設費で対応するもの、運営費で対応するものを分けて考えておくなど、具体の場面を想像しながらシミュレーションして準備しておいた方が、機動的に動きやすいのではないか。

○プロモーションについては、コストをかけてやることと、コストをかけずにできる事を分けて考えるべきではないか。後者については、例えば、出展事業者・協賛事業者に対し、もっと積極的なプロモーションをして欲しいと協会から要請いただく等。コストをかける話については一定の予算の枠組みがあるとは思いますが、それに拘りすぎずに、もっと柔軟に機動的な運営を行うことをお願いしたい。

○全体として管理された状況にあると感じた。資材コストの上昇率が抑えられているという点に関し、確かに新規契約についてはこれが予定価格に反映されることが期待できる一方、契約変更の場面では増額・減額どちらもあり得ると想像するが、契約変更・減額変更について、どういう理由・プロセスでそうなっているのか、教えてほしい。

(博覧会協会「契約変更の際にゼネコン側と様々な交渉をしているが、法令に基づく消防からの要請など、義務的に対応が必要な経費もある。他方、オーバースペックであるものについては都度協議して減らすように務めている。』)。

以上